

2007 年度団体別フォローアップ結果

ガラスびんリサイクル促進協議会	16
PET ボトルリサイクル推進協議会.....	20
紙製容器包装リサイクル推進協議会.....	24
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会	28
スチール缶リサイクル協会	32
アルミ缶リサイクル協会.....	36
飲料用紙容器リサイクル協議会	40
段ボールリサイクル協議会	44

PETボトルリサイクル推進協議会の概要

● 事業目的

1. PETボトルのリサイクルに関する啓発
2. PETボトルのリサイクルに関する研究及び調査
3. PETボトルのリサイクルに関する指導及び建議
4. PETボトルのリサイクル推進に係わる関係団体等との連携及び協力
5. 会員相互の情報交換
6. その他推進協議会の目的を達成するために必要な事業

● 設立：1993（平成5）年6月22日

● 正会員団体：

社団法人 全国清涼飲料工業会
PETボトル協議会
社団法人 日本果汁協会
日本醤油協会
酒類PETボトルリサイクル連絡会

● 主な役員

会長	：服部 政夫（株式会社吉野工業所 技術・環境部門執行役員）
副会長	：公文 正人（社団法人全国清涼飲料工業会 専務理事）
	野村 公生（三井化学株式会社 PTA・PET事業部 部長）
	金子 収（日本醤油協会 専務理事）
専務理事	：松野 建治

● 事業所所在地：東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル2階

● 主な活動内容：

3R推進活動

- (1) 3R自主行動計画の実施とフォローアップ
- (2) 正しい知識及び情報の提供活動
 - ・広報誌の発行・配布、展示会出展、ビデオ、再生品の紹介等
- (3) 市町村分別収集への協力
 - ・主要市町村の訪問調査、事例紹介等
- (4) リサイクルシステム効率化
 - ・関連団体との連携及び国内外の先進事例等研究

■本件に関するお問い合わせ先■

PETボトルリサイクル推進協議会
新美・松野

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル2階

TEL : 03-3662-7591

FAX : 03-5623-2885

URL : <http://www.petbottle-rec.gr.jp>

PETボトルリサイクル推進協議会の自主行動

<PETボトルに関する自主行動計画の2007年度フォローアップ結果>

リデュース

2010年度目標	2007年度取り組み実績
新たな技術開発等を行い、主な容器サイズ・用途毎に2004年度実績比で1本あたりの重量を3%軽量化する。	◎2007年度のボトル重量調査を、推進協議会を構成する5団体に行った結果、2004年度に比べ、主な容器サイズ・用途計15種のうち8種で0.9~10.0%の軽量化が達成できた。

リユース

2010年度目標	2007年度取り組み実績
リターナブルシステムの調査研究を行う。	◎2008年3月に環境省の「ペットボトルを中心とした容器包装のリユース・デポジット等の循環的な利用に関する研究会」に参加し、国内外のリターナブルPETボトルの経緯を示し、安全性が確保できない現状ではリターナブルPETボトルを導入することは非常に難しいとの意見を述べた。

リサイクル

2010年度目標	2007年度取り組み実績
回収率75%以上を達成する。	◎回収率69.2%を達成した。
つぶしやすい容器の開発を目指す。	◎会員団体各企業に要請して特許、実用新案及び新聞、雑誌への公表記事等に関する調査を行い、2件の開発があった。
簡易洗浄して排出するよう啓発活動を継続	◎ホームページ、広報誌『RING』、2007年度版年次報告書に掲載し啓発を行った。
自主設計ガイドラインに基づいて、環境配慮設計の容器を継続して開発	◎PETボトルの自主設計ガイドライン遵守を目的にガイドライン分科会にて、着色ボトルなどの調査を行い、問題のあった企業にはその遵守を要請し、是正を図った。

広報活動/市町村・消費者団体との連携

2010年度目標	2007年度取り組み実績
広報活動	◎消費者・市町村に対しホームページ、広報誌『RING』(年2回)、年次報告書、再利用品カタログ等による情報提供及び啓発活動を行った。 ◎市町村や各種展示会へのサンプル・グッズおよび資料の提供を行った。(67市町村) ◎年次報告書の記者発表会を開催。多数の新聞などに掲載され。高い関心と評価を受けた。 ◎市町村へのお願いとして、円滑な引き渡しに関する要望書を配布した。
市町村との連携	◎先進市町村(5市区)との定期的情報・意見交換会を開催した。
消費者団体との連携	◎消費者団体との情報・意見交換会に参加した。(6回)

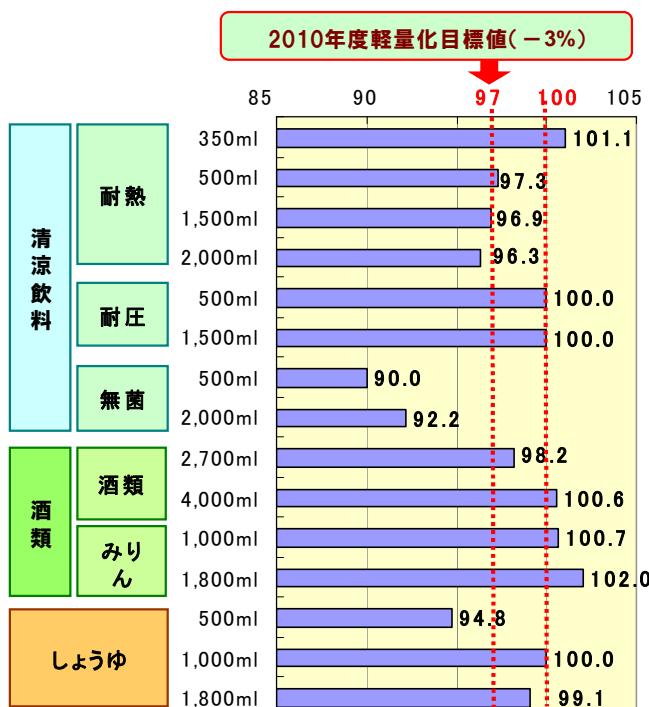
リデュース(Reduce)

● 2004年度実績比3%の軽量化が目標

PETボトルのリデュース（軽量化）目標は「新たな技術開発を行い、2010年度までに、主な容器サイズ・用途ごとに2004年度実績比で1本当たりの重量を3%軽量化する」です。

2007年度軽量化実績を図1に示します。対象とする15種の容器のうち8種の容器で0.9%～10%の軽量化が図られました。2007年度に軽量化が進まなかった容器については、今後さらに容器製造事業者・中身製造事業者が協力して、目標達成に向け努力を続けてまいります。

図1. 2007年度サイズ・用途別PETボトル軽量化実績
*2004年度のボトルを基準(100)にした軽量化



(出所) PETボトルリサイクル推進協議会

リユース(Reuse)

● 「ペットボトルを中心とした容器包装のリユース・デボジット等の循環的な利用に関する研究会」に参加

2008年3月に立ち上がった環境省の研究会に参加し、過去からの取組み、調査・研究を踏まえ、リユースに向けての現状の課題、取り組むべき検討課題等を2007年3月25日開催第2回研究会で報告しました。（詳細は環境省研究会資料を参照下さい。）

● PETボトルのリユースについての業界スタンス

現状においてのリユースについての業界スタンスは、以下の通りです。

①安全性の確保ができない現段階では、リターナブル化を進めることはできない。

②安全性が確保されたという前提下においても、解決困難な課題は非常に多く、十分な時間をかけ、慎重に検討することが必要である。

③海外での導入事例が引き合いに出されるが、実際には各国とも縮小傾向にある。

④ガラスびんで復活できていないリターナブルシステムがPETボトルなら可能であるとする根拠がない。

● 今後の研究課題

環境省の研究会は、2008年7月4日の第5回の研究会において中間のとりまとめが行われ、環境負荷のさらなる検討、食品衛生や品質確保の検証、ビジネスとしての経済性と消費者の受容性の研究、回収促進策その他の社会システムの在り方の研究などを、実証実験の実施を通してさらに検討を深めていくこととしています。

推進協議会としても、特に、次に示す2点の調査・研究に努力する方針です。

①安全・安心性の確保

- ・異味・異臭や有害物質がはいった場合に、吸着量が少なく、洗浄すれば完全に除去できるガラスびんに比べ、吸着量の多いPETボトルでどこまで洗浄除去できるのか、調査研究する。

②環境負荷の評価（LCA）

- ・ボトル重量、使用回数、輸送距離を考慮した、リターナブルPETボトルとワンウェイPETボトル等のLCAを検討する。

リサイクル(Recycle)

● 2007年度回収率69.2%を達成

2007年度の回収率の分母および分子を下表に示します。

(単位：千トン)

		年度	2006	2007	対前年比
分母	PETボトル販売量	544	573	+5.4%	
	全回収量	361	397	+10.0%	
分子	市町村分別収集量	268	283	+5.7%	
	事業系ボトル回収量	92	113	+22.6%	
指定 PETボトルの回収率		66.3%	69.2%	+2.9P	

2007年度の回収率は69.2%で、前年度を2.9ポイント上回り、継伸しました。（図2）

● 輸出推計量を含む実質的な回収量は565千トン

これまで回収率の分子となる回収量は、貿易統計（財務省）よりのPETボトル輸出量を十分に包含しているとは言い難いため、輸出統計に基づく「実質的な回収量」を推計し、公表してきました。

推進協議会による再商品化事業者を対象とする回収量調査にて、2007年度国内にて再利用される国内向け回収量は270千トンでした。一方、2007年度のPETくず輸出量は

363千トンで、推進協議会の輸出調査により求めた2007年度「PETくず中のPETボトルの割合」81.2%を掛けた使用済みPETボトル輸出量は295千トンとなり、これを回収量ベースでの輸出推計量としました。

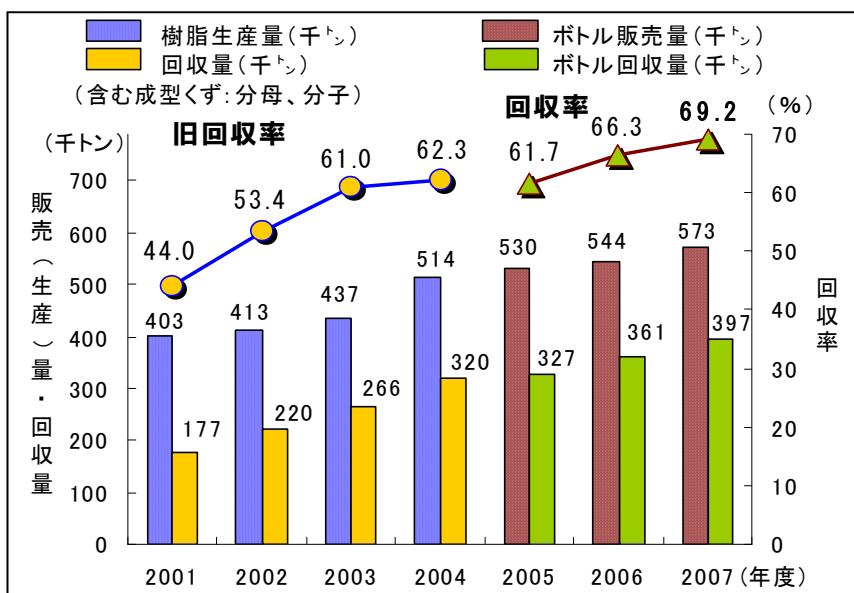
結果、実質的な回収量は、565千トンとなりました。

●指定 PET ボトルのリサイクル率を設定し、2007 年度値を87.7%と推計

今年度は、「実質的な回収量」から再商品化して得られる「PET リサイクル量」を算定し、それを分子とする指定 PET ボトルのリサイクル率を指標化しました。

2007 年度国内向け回収量Eから推進協議会調査による「PET リサイクル量の割合」である 88.8%を用いて、国内にて再利用される国内向け PET リサイクル量Gを240千トンと推計しました。

図2. 指定 PET ボトル回収率の推移



一方、海外にて再利用される海外向け回収量を PET ボトル輸出推計量Fと仮定して、国内向けと同様の手法にて海外向け PET リサイクル量Hを 262 千トンと推計しました。

結果、指定PETボトルの販売量Aを分母として、PETリサイクル量を分子とする2007年度リサイクル率を87.7%と推計しました。(記号は図4を参照下さい。)

●2007年度国内向け用途別再生フレーク量は204千トン

前年度に引き続き国内向け用途別再生PETフレークの受け入れ量を国内再利用事業者にアンケート調査をしました。

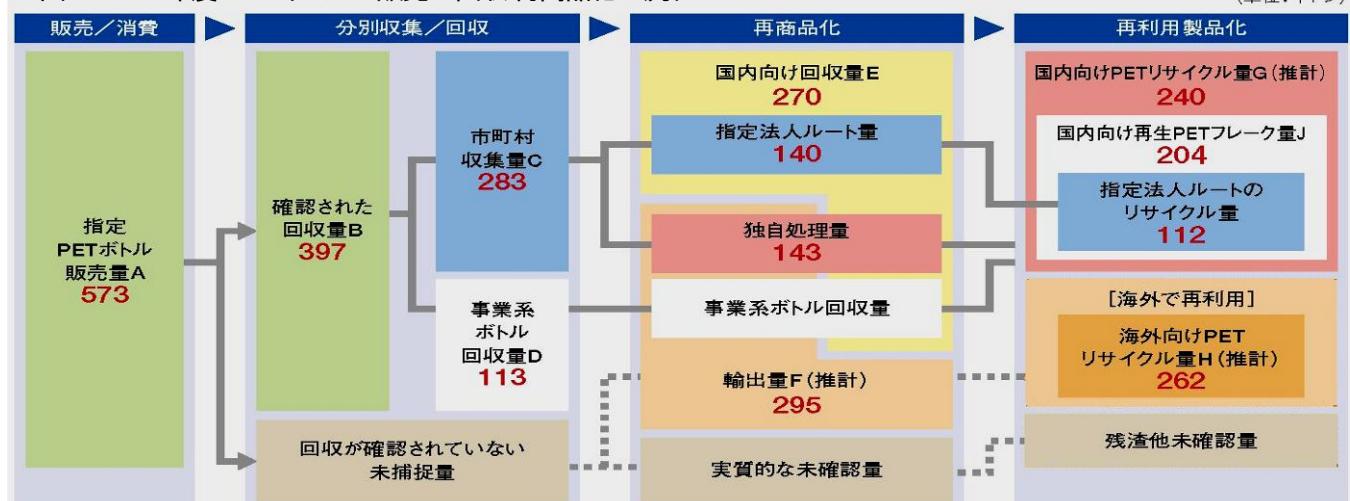
2007 年度の国内向け再生 PET フレークの総量は、204 千トンでした。(用途別割合は図3を参照下さい。)

2007年度の指定PETボトルの販売～回収～再商品化の流れを図4に示します。

図3. 2007 年度国内向再生フレーク用途



図4. 2007 年度 PET ボトルの販売／回収／再商品化の流れ



(出所)○指定 PET ボトル販売量、事業系ボトル回収量、国内向け回収量、国内向けフレーク量: PET ボトル推進協議会

○指定法人ルート量、指定法人ルートのリサイクル量: (財)日本容器包装リサイクル協会

○輸出量、PET リサイクル量: PET ボトルリサイクル推進協議会の推計値

*千トン未満を四捨五入しているため、数値が若干上下しています。